

「A」次の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 「芸術人類学」の企ての基礎をなしているのは、私が数年前から展開してきた「対称性人類学」という、ヒトの心の働きを探求するための新しい方法である。(中略)しかも私たちのめざしているのは「」的サイエンスの構築である。新しい認識が新しい生き方の創出に結びついていけるような、現実の中でも効力を発揮できる「」的サイエンスこそが、私たちの求めるものである。(中沢新一『芸術人類学』)

※二カ所ある「」には同じ語が入る。

- ①実践 ②合理 ③抽象 ④神話 ⑤理想

1 「」

2 西洋近代の啓蒙思想、科学、民主主義等を受容した後の、とくに戦後の日本で教育されたわれわれは、「自我」を確立すべきだとか、他人も自分と同じようにそれぞれの自我を持っているに違いないと容易に信じてしまう。学校教育の場でも「主体性のある人間」が目標に掲げられる。「自らの意志で考え、行動を選択し、決定する」生き方こそ、あるべき「自我」の姿だとされる。そこから「」の表裏一体化が強く示唆される。(酒井潔『自我の哲学史』)

- ①自由と責任 ②権利と義務 ③主体と客体 ④個人と社会

2 「」

3 欧米は「考える」「主張する」「選ぶ」社会であり、それに対して、日本は「思う」「共感する」「合わせる」社会であると言われる。

「考える」「主張する」「選ぶ」ときの主体は自分であり、その意味で、絶対的であり明快である。一方、「思う」「共感する」「合わせる」ことは、暗黙裏に他者の存在を念頭に置いており、その意味で「」。 (小笠原泰『なんとなく、日本人』)

- ①先進的であり合理的である ②主体的であり絶対的である ③伝統的であり古めかしい ④相対的であり曖昧である

3 「」

4 深層心理学は、もともとフロイトの治療という、きわめて「」なことからおこってきた学問である。不眠の人、気持ちが悪くさいで何もできない人、尖ったものが恐ろしくてたまらない人、自殺したいという人、これらの人にどのように接してゆくか。(河合隼雄『日本人とアイデンティティ』)

- ①空想的 ②実地的 ③科学的 ④哲学的 ⑤観念的

4 「」

5 言うまでもなく、相手に働きかける道具としては、既に言葉そのものが間接的なものである。言葉で「戸を閉める」と命じるのは、自分で戸を閉めるよりは間接的な行動である。同じ言葉を用いるにしても、「戸を閉める」と命じるより、「戸を閉めてくれ」と頼むほうが、もっと間接的である。「A」「戸を閉めてくれる？」と問うほうが、「B」「戸を閉めてくれない？」と否定形で問うほうが、なお間接的である。「C」「寒くない？」と問いかけたり、「D」「寒い」と呟いたりするほうが一層間接的である。(福田恆存「言葉は道具である」)

※同じ番号を二度以上用いてはならない。

- ①ただ ②さらに ③あるいは ④それよりも 5 [A] [B] [C] [D]

6 私はこのニーチェの思想にひかれ、若き日、あるいは小林秀雄に、あるいは丸山真男に「」ない批判を加えた。私は一時、彼らを尊敬していたものの、彼らの著書に大いなる退廃を感じたからである。無名の私が彼らを厳しく批判したことによって、その後私はさまざまな迫害を被ったが、このような暴挙と迫害なしに私は多くの著書を書き続けることはできなかったであろう。(梅原猛「反時代的密語」)

- ①余儀 ②理由 ③遜色 ④造作 ⑤良識 ⑥容赦

6 「」

7 神保町の隣り、猿楽町に小さな事務所を借りて一年が過ぎた。住んだことがある訳でもないのに、帰ってきたような気がするのは、近くに古本屋が立ち並んでいるせいだろう。

気が向けばいつでも古本屋巡りを楽しむことができる。となると不思議に心は落ち着くものである。いまはもうワクワクと店先に駆け込んだりはしない。「」書棚を眺める。偶然の出会いや発見がそう毎日あつては心臓にもよくないのである。(長谷川郁夫「記憶の中の本」)

- ①じっくりと ②淡々と ③熱心に ④ソワソワと ⑤ざっと ⑥急いで

7 「」

8 ここでも、差異性の発見と模倣による差異性の喪失という、シシフォスの神話に似た反復の過程が支配しているのである。それは結局、他人に認められたいという人間にとつては「A」である社会的欲望が、モノのもつ差異性という「B」な価値を媒介としてしか満たされないという、人間の欲望のはらむ根源的なパラドクスの産物であり、その部分的で一時的でしかありえない解決の終わることなき反復なのである。(岩井克人『ヴェニススの商人の資本論』)

- ①利己的 ②相対的 ③絶対的 ④限定的 ⑤偶然的 ⑥革新的

8 [A] [B]

9 機械による生産は、大きなエネルギーが必要だが、どこに工場を設けても同じ製品を作れる。ところが、手作業では、その土地の気候風土に合った原料しかできないし、運送能力が低かった時代は、原料生産地からあまり遠くない場所で製造しないと値段が高くなってしまふ。

要するに、生産できるものがその土地の自然環境の影響を強く受けるのだが、江戸時代の人々は、このことも前向きに利用した。「」各地の人々が自分なりに工夫して自分たちの土地柄に合った特産品を作り、こんな番付にまで出るような全国ブランドとして育て上げたのである。(石川英輔「大江戸開府四百年事情」)

- ①つまり ②そのかわり ③けれども ④もつとも ⑤なぜなら

9 「」

10 見知らぬ自然科学者に、「科学の歴史」を専門にしています、と自己紹介するとき、お互いに一瞬気詰まりな空気を味わう。昔の科学など調べたっていったい何の役に立つのだ、と内心不審がるその人と、そう思っているに違いないと思う私の気持ちだが、沈黙のなかでぶつかり合うような気がするからだ。

科学は、他の領域の知識に比べると蓄積性が高い部分が多い。その科学でさえ、単に「A」的だけでなく、多くの断片的な変化を経験してきた。自然界を理解する仕方に、「B」的な経路などはなく、思いがけない展開が所々に顔を出す。私には、それが実に面白い。(金森修「この瞬間を歴史に刻む」)

- ①偶然 ②必然 ③思想 ④蓄積 ⑤文学 ⑥協調 ⑦社会

10 [A] [B]

解答

〔空所補充〕 国語頻出問題 200 四訂版 P 148 ~ P 158

- 1 〔 ① 〕〔第 5 章・6 〕
- 2 〔 ① 〕〔第 5 章・8 〕
- 3 〔 ④ 〕〔第 5 章・14 〕
- 4 〔 ② 〕〔第 5 章・7 〕
- 5 〔 A ④ 〕 B ③ C ② D ① 〔第 5 章・4 〕
- 6 〔 ⑥ 〕〔第 5 章・10 〕
- 7 〔 ② 〕〔第 5 章・13 〕
- 8 〔 A ③ 〕 B ② 〔第 5 章・15 〕
- 9 〔 ① 〕〔第 5 章・3 〕
- 10 〔 A ④ 〕 B ② 〔第 5 章・16 〕